

平成13年度第3回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会
保護管理作業部会 議事要旨

平成13年10月16日(火)

1. 議事

- (1) ホームページへの掲載と地元説明会の開催状況について
- (2) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画(案)について
- (3) その他

2. 議事要旨

(1) ホームページへの掲載と地元説明会の開催状況について

- ・10月1日に奈良県上北山村、3日に三重県宮川村で地元説明会を実施した。
- ・ホームページでも保護管理計画案を公開しており、広く一般の方々のご意見を10月29日まで募集している。
- ・地元説明会で、地元の方々から大台ヶ原だけの問題ではなく、周辺を含めて考えて欲しいという意見があった。
- ・地元の方から防鹿柵に地元の木を使って欲しいという意見があった。

(2) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画(案)について

- ・周辺を含めた生息環境整備については、保護管理計画の中だけで解決する問題ではなく、別のところで考えた方がよい。
- ・保護管理計画とは別に具体的な提言を検討会から出してはどうか。
- ・個体数調整については数値基準や保全目標が明確に示されているのに対して、防鹿柵やラス巻きについては具体的な数字が出ていないのが問題である。年次計画を示し、防鹿柵を何km設置するというような数字を書くといい。
- ・森林復元・天然更新についてはこれまでの事業を評価して、何をどこまでやるか見直すべきだ。
- ・ここでいう健全な個体群とは何か。
- ・森林生態系と共存できるシカの密度で植生への影響がない密度の個体群を指す。
- ・防鹿柵を設置する場所について、オープンランドはシカの餌場でありトウヒが再生していない場所であるので、そのオープンランドを積極的に柵で囲えば、餌場がなくなりシカは集まらず、柵内の植生が回復するだろう。長期的にみた場合、餌場を囲うとよいのではないか。さらに、柵内に実生を植えてもいいだろう。

- ・実生の生育にはササとの競争も問題なので、実験的に試してみるとよい。たとえば、遮蔽して光条件を変えたり、下刈りをする等。
- ・一番植生が荒れている場所で積極的に森林育成を進めるとよいのでは。
- ・植生の復元は、二次遷移に任せただけでは無理だろう。ササによる影響が考えられる。他の木本が生長してササに換わるといいが。
- ・広葉樹を先に育成して植えるという考えもあるが。
- ・寒冷紗で遮蔽した方が時間がかからないと思う。
- ・オープンランド的になっている場所と植生を保全すべき場所を同時進行で保全していく方針で良いのでは。
- ・柵の設置の優先順位はオープンランドの方が上だと思う。今の計画にオープンランドも含めて、優先順位を決めて年次計画を立てれば良いのではないか。
- ・地元の方の意見にもあったが、柵に木を使ったほうが良いのでは。モデル事業としてオープンランドで木を使った柵を設置したらどうか。
- ・p 27の3番目に森林の回復という項目を追加して、植生的に裸地化しているササが密生しているところでは、植生の回復を図るということを明記したらどうか。ここは具体化した方がよい。現在森林状態ではなくササ原になっている場所に対しては、積極的に森林の回復を図るとしたらどうか。
- ・モニタリング結果に応じて随時個体数調整の方向を見直すがあるが、具体的にはどのような状況の時見直すということか。
- ・今後モニタリングしていく場合、糞粒法を改良していくと推定生息数の値が変化するので、目標頭数も変更する可能性がある。

(3) その他

- ・保護管理計画とは別に、国有林、民有林を含めた生物多様性の保全のための森林のあり方、国有林や周辺市町村との連携、森林復元、これまでの事業の評価と方向性、モニタリング、利用対策、情報公開等について、検討会として提言を環境省に対して出したい。
- ・大台ヶ原保護管理計画への提言では、現在ある問題に対して今後解決すべき点について書けばよい。
- ・今回の保護管理計画においても、計画区域という狭い地域だけの問題ではない。本文のp 30を補足する内容だと思う。大台ヶ原だけの話ではないということを示す。
- ・過去のトウヒ林保全対策事業について評価が必要だ。今まで実施してきたことを示し、今後どうしていくかを広い視野で検討する必要がある。それには、この保護管理検討会や植生保全対策検討会ではなく別の組織が必要だ。

以上